

平成 30 年 5 月 16 日
茨城県立土浦第二高等学校

平成 30 年度土浦第二高等学校海外派遣プログラム アメリカ合衆国ボストン・ニューヨーク研修について

1 プログラムの目的

人生で最も多感な時期である高校時代に、海外のトップ大学生や現地高校生との交流をとおして、異なった価値観や文化を体験し、将来の進路や方向性を考えるきっかけとする。

また、現地でのディスカッションやプレゼンテーション、事前事後の研修等をおして、英語力、論理的批判的思考力やコミュニケーション力、自らチャレンジし主体的に取り組む力などの 21 世紀型スキルを育み、将来、世界でたくましく活躍できる人材を育成する。

さらに、世界の問題解決型ワーク研修をすることによって、多様性の理解を育みグローバルな社会の中で活躍できる人財を推進する。

2 派遣国・地域

アメリカ合衆国 ニューヨーク市（ニューヨーク州）、ボストン市（マサチューセッツ州）

3 派遣日程・取扱業者

○日 程 平成 31 年 3 月 9 日（土）～3 月 20 日（水）12 日間（旅程表参照）

○取扱業者 （株）アイエスエイ

4 研修のポイント

（1）ニューヨーク市

- ①国際連合本部 ②イェール大学 ③グランドゼロ
- ④メトロポリタン美術館 ⑤ブロードウェイミュージカル鑑賞

（2）ボストン市

- ①語学研修 ②ハーバード大学キャンパスツアー、ワークショップ
- ③マサチューセッツ工科大学キャンパスツアー、ワークショップ
- ④ホームステイ
- ⑤現地高校交流・プレゼンテーション ⑥ボストン美術館（講演含）・市内観光等

（3）事前・事後研修

ISA スタッフ及び外国人講師 による研修，JICA 研修 等

5 募集人員

1 年生 40 名以内

●今後の予定 事前準備等

1. 事前研修（海外研修計画のブラッシュアップ・活動の目標の明確化）

○派遣制限人数を超えた場合は、選考試験の実施も有り得ます。

平成30年	5月16日（水）	希望者対象説明会・募集要項配布（保護者参加）
	6月14日（木）	選考試験（英語筆記）
	6月 中・下旬	選考試験（面接日本語 （面接英語6/15, 19, 20, 22 予備日26）
	7月 上旬	派遣生徒決定・通知
	8月17日（金）	第1回事前研修（JICA筑波）現地集合
	9月 7日（金）	第2回事前研修（書類等説明会）（保護者参加）
	10月 7日（日）	①英語研修＋『Kick-offオリエンテーション』
	11月11日（日）	②英語研修＋『ホームステイオリエンテーション』
	12月16日（日）	③英語研修＋『安全管理オリエンテーション』
	12月19日（水）	第6回事前研修 集会（プレゼンテーション用パワーポイントについて
平成31年	1月20日（日）	④英語研修
	2月25日（月）	第8回事前研修（最終説明会）（保護者参加） ・プレゼンテーション発表
	3月 8日（金）	出発前日最終確認

2. 海外研修 平成31年3月9日（土）～20日（水）迄 10泊12日

3. 事後研修 留学を通じて学んだことの言語化（冊子作成）

体験のシェアと相互の学び合い

将来の目標設定

1. 「グローバル化」とは、何か。

・英語を使って何を目的として、何をゴールにするか。グローバルな社会の中で活躍できるリーダーの育成。

・新しいアイデアを生み出す…イノベーションを起し続けている。

・世界の課題解決型ワークは A.S.E.A.N.=貧富，病院，食糧の問題等実際に見て解決する。

・自分のまわりの小さな課題を見つけそれを解決することで、世の中に大きなインパクトを与えることができることに気付く研修(多様性の理解)をすることが必至である。

2. 「グローバル人材育成」の必要性和留学の意義について

- ・新しい考え方に触れ協働的に学びながら国際的視野と幅広い教養を身に付ける。

(参考) 文部科学省官民協働海外留学創出プログラム＝官民協働海外留学支援制度トビタテ！ 留学 JAPAN 日本代表プログラム「高校コース」の概要についてによる。

近年、社会の技術進歩は著しく、世界の動きが早くなっている。

レイ・カーツワイルの著書「Singularity」によれば、2045年には、機械が人間を超え45%が自動化、ロボット化になり、65%が現在ない職業に就くと言われる。

今後社会(世界)はどう変わっているか？

'VUCA' World を若者に伝えているメッセージ

Volatility(変動性)

Uncertainly (不確実性)

Complexity (複雑性)

Ambiguity (曖昧性)

トビタテ！留学 JAPAN の調査によれば、グローバル人材ニーズの増加を示している。過去2001年から2017年までに、日本企業の海外生産比率は24.6%→39.9%、海外売上比率は27.9%→39.5%等、いずれも増加している。高校生もグローバル化を意識し、「グローバル化は自分にとって関係がある」は72%、「留学したい」は33.9%と前向きな結果が出ている。グローバル人材ニーズの増加目標として、2020年東京五輪の訪日外国人観光客数目標：3000万人と日本国内においても国際化が加速している。日本全国の高校生留学について、平成25年度、高等学校等における国際交流等の状況について(調査結果)によれば、高校生の留学生数：約42,000人であったが、2020年度までに日本人留学生倍増(日本再興戦略 平成25年6月14日閣議決定による)

大学生等 6→12万人

高校生 3→6万人を示し、全ての意欲ある若者に多様な海外留学の機会を与えるとしている

トビタテ！留学 JAPAN とは、官民協働で取り組む留学測深キャンペーンとして、平成25年度よりスタートし、産学官の出身者から構成され、協働プロジェクトチームが事業を推進している。特徴：オールジャパン型官民協働への挑戦で、目標：10,000人の日本代表生の派遣である。民間企業からの寄付金による運営で、2017年5月時点で209社・団体から約116.8億円の支援表明し、2020年までに計200億円を目標にしている。幅広い企業からの支援により成り立っている。

トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラムの特徴①は、

〈日本代表生に期待する3つの役割〉

Global Leader・留学を通じて最大限に成長し、将来のグローバルリーダーを目指す

Ambassador・・・留学期間中は、「日本のアンバサダー」として日本の良さを発信する

(世界中に日本について発信し、自国の理解を深める)

Evangelist・・・帰国後、留学生増加のため留学のエウ”アンジェリストとして活動する

自分の経験を語り伝えることで、留学気運醸成の一翼を担う

(自分の地域や高等学校等で、留学で得られた経験と学びを発信

留学成果報告、留学フェアを企画、留学情報誌を自主製作)

3. 2019年茨城国体及び2020年東京五輪を迎えての国際人の育成を焦点にすれば、「茨城の魅力」として世界への発信を要する。私は、2002年のFIFA World Cupを鹿嶋市で迎えた際に、当時の勤務校である神栖高校の生徒達と共に通訳ボランティアを実施した。その際に新聞・テレビメディア等で多数取り上げられ、多くの生徒たちが生涯忘れることの出来ない体験をすることが出来た。このような貴重な体験が、今後の生徒達の人生の指標になることが多く、得てして大きな意味を持つ。現在の高校生にとって必要なのは、海外において日本について語れるということが大切である。準備すべきことは、自分の国、日本のことを外国の人にしっかり説明（発表）できることである。

私自身、20代の若い英語教師期間にU.C.Berkeley(大学)において、TESLE(英語指導法)を学んだ留学経験があるが、現在においても体験すること・体得することの素晴らしさを身をもって認識している。

これからの高等学校における国際交流は、これまで主に取り組んできた姉妹校交流・ホームスティの枠のみならず、もう一步前進した大学との交流が必要になってくると考察する。

●何故、今、又、アメリカ留学か！

世界大学ランキング『英タイムズ・ハイヤー・エデュケーション (THE)』(2017)による

MIT (マサチューセッツ工科大学)	5 位
ハーバード大学	6 位
イエール大学	12 位

茨城県立土浦第二高等学校 副校長 原 恵三子